

スターラーの使い方

ちょっとしたテクニック

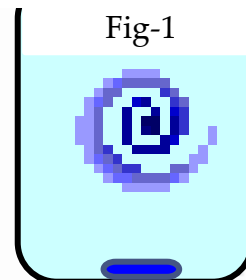
- 溶質を溶媒に可溶化させる際に、スターラーと撹拌子(マグネット)を使用しますが、溶質の溶媒に対する溶解性や溶解度により、時として時間を必要としたり、加温することが必要です。
- 一般的な化学物質は、加熱溶解しても、溶質が変性・劣化等することはありませんが、①温度により変質・劣化するものもある。また、加熱溶解した場合、室温に戻るまでは使用できない、などのことが問題になることがある。

◆ 加熱溶解は避けたい

◆ なるべく早く溶解したい

- 通常の化学実験本では、Fig-1のように、マグネットを真ん中で回すこととされている。
 - マグネットを真ん中で使用した場合、溶媒と溶質が同一のスピードでビーカーの中で回転し、定常的な回転状態となる
- ↓
- Fig-2のように、マグネットを端にずらして使用すると、ビーカー中の溶液は、定常的な回転ではなく、乱流が生ずる。
 - 乱流となることで、溶質は溶媒とぶつかりあうような状態となり、スターラーを真ん中で使用した場合と比べ、溶解する時間が短くなります。

◆ 画期的に短くなることはありませんが、『溶質が解けずらい』ときや『加熱したくない』場合などの時、試してみてください。



スターラー



スターラー